

事務事業評価シート

1 基本情報

		事業番号	040303011400		事業の種類	4		
年度	25	事務事業名	ガラス工房運営事業		予算事業名	ガラス工房運営事業	優先度	3
まちづくり目標		未来を支える産業の活性化と環境にやさしいまち			担当部局名	市民生活部環境課		
施策名(中)		クリーンなまちづくりを推進する		担当課長	松本 秀文	担当者名	三谷 真美	
取組み事項		ごみの適正な処理を推進する		実施計画への記載	無	主要事業の指定	無	
実施計画事業名								
根拠法規及び関連法規								
事業の目的	誰のために(具体的に)	市民						
	誰(何)を対象として	リサイクル推進の啓蒙						
	意図(どのような状態にしたいのか)	循環型社会づくりの環境学習の一環として、リサイクルの現場に触れ、廃ガラスから作品を作り上げる工程を体験することで、再生の喜びと環境への意識を深めることを目的とする。						
	事業の全体年度	事業着手年度			(年度)	事業完了予定年度		

2 事業の概要 Do

実施の概要		環境教育推進事業 相生すりばち山ガラス工房事業(平成21年度より実施)					
活動実績	項目	単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
	ガラス工房教室開催回数	回	123	110	122	100	
	ガラス工房教室参加人数	人	423	520	554	450	
	ガラス工房イベント参加回数	回	8	10	21	10	
	ガラス工房イベント参加人数	人	652	327	693	600	

3 投入資源

		会計区分	一般会計						事業費単位:円
インプット指標		23年度決算	24年度決算	前年比	25年度決算	前年比	26年度予算	前年比	備考
人員	部長以上職員	0.024	0.024	100	0.026	108	0.027	104	
	参事以下職員	0.320	0.160	50	0.160	100	0.200	125	
	臨時職員	0.640	0.320	50	0.600	188	0.440	73	
支出内訳	人件費	4,343,864	2,311,736	53	3,011,850	130	3,042,269	101	
	事業費	4,584,893	4,510,216	98	4,348,661	96	4,700,000	108	
	合計	8,928,757	6,821,952	76	7,360,511	108	7,742,269	105	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他	192,000	232,500	121	247,500	106	200,000	81	
	一般財源	8,736,757	6,589,452	75	7,113,011	108	7,542,269	106	
合計	8,928,757	6,821,952	76	7,360,511	108	7,742,269	105		

※ 事業の進捗状況

		事業費単位:円				
	項目	23年度	24年度	25年度	26年度	/
全体進捗率	事業費累計					
	進捗率					

4 評価指標

【有効性】

指標名1		体験学習							
指標説明(式)		教室参加人数							
指標単位	区分	23年度	24年度	前年比	25年度	前年比	26年度(計画)	前年比	備考
人	目標	250	400	160.0	500	125.0	450	90.0	
	実績	423	520	122.9	554	106.5			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	23年度	24年度	前年比	25年度	前年比	26年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

【効率性】

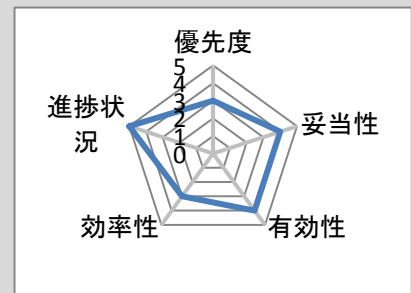
指標名1		体験学習開催日数							
指標説明(式)		教室開催日数+イベント参加回数							
指標単位	区分	23年度	24年度	前年比	25年度	前年比	26年度(計画)	前年比	備考
回	目標	80	100	125.0	120	120.0	110	91.7	
	実績	131	120	91.6	143	119.2			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	23年度	24年度	前年比	25年度	前年比	26年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(25年度実績) Check

評価視点	具体的な評価視点	評価コメント及び現状認識	担当課評価
妥当性	市民ニーズ	ガラス工房教室は盛況であり、市民のガラス工芸づくりによる資源再生の体験学習、リサイクル事業のニーズは大きいと考えられる。	4
有効性	成果目標(改善)達成度	ガラス工房教室により再生の喜びと資源を大切にすることの大切さを子どもたちが体験を通して学ぶことができ、環境学習として効果が高かった。	4
効率性	コストの節減	事業の有効性は高いが、他の環境学習事業(里海づくり事業、子ども環境日記事業)とと比較し経費割合が高い。	3
進捗状況	事業計画に対する進捗状況		5

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	手段の最適性	工房が美化センター内にあることで、交通上の課題と、夏休み以外の子どもの教室開催が困難である。



7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた26年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	手段の最適性	教育委員会と連携し、小学生の授業に出張教室を開催する等により、より広く市民に工房事業に参加してもらうよう展開する。

配点	32.5
総合評価	24

(2) 27年度以降の改革改善内容

区分	内容
重点事項	
見直し事項	経費面での見直しを行い、より費用対効果の高い事業として運営する。
新規事項	
方向	継続 成果 維持 総コスト 維持